

県民宣言

バス・電車などの公共交通は、地域の人々にとって、移動するための手段として欠くことができない重要な社会基盤です。

しかし、我々は、その重要性を忘れ、「公共交通だから、事業者や行政が何とかしてくれるので、無くなることはない」と思い込み、いや、そう思うことすらなく、自家用車を利用してきたのではないのでしょうか。

その結果、県内各地でバス路線の廃止や縮小がおこなわれ、さらに鉄道路線までが存続が困難な状態になるなど、まさに、地域公共交通は危機的状況に陥りました。

「年をとって車を運転できなくなったらどうするんだ。」「子供たちはどうやって通学するんだ。」県内各地で、まさに悲鳴とも言える切実な声が上がっています。

このため、我々県民は、行動を始めました。地域住民が行政、事業者と一体となって、地域の実情に即した交通システムを再構築する取組を。

しかし、交通システムを見直せば、それだけで全てが終わるのでしょうか。

将来にわたり、公共交通を確保していくためには、まず、利用者である我々県民が、もう一度、公共交通の大切さを認識する必要があるのではないのでしょうか。

地域の公共交通は、「乗らなければ、無くなってしまう」ということ、そして、「今でも学生やお年寄りなどが移動するための重要な手段であり、欠かせない地域の足である」ということを。

そうです。今こそ、更なる行動が必要です。公共交通を「乗って残す、乗って活かす」ために。

我々県民は、この大会において、改めて宣言します。

「地域住民の共通財産として、また、私達が安心して暮らすための社会基盤として、公共交通を次の世代に残して行くことは、今を生きる私達の責務であり、本日、ここに、公共交通の重要性を再認識し、県民、事業者、行政がそれぞれの適切な役割分担と連携・協力のもとに、暮らしを支える地域公共交通の確保を目指して、行動します」

「乗って残す、乗って活かす公共交通」県民大会
平成22年8月21日

平成22年10月1日（金）

地域公共交通の再構築をめざして

バスや乗合タクシーの実証運行をスタートします

